

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 6 7	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Childhood depressive symptoms and early onset of alcohol use. 子供における憂鬱的徴候とアルコールの早期使用	
執筆者	
Wu P, Bird HR, Liu X, Fan B, Fuller C, Shen S, Duarte CS, Canino GJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pediatrics. 2006 Nov;118(5):1907-15.	
キーワード	
憂鬱、アルコール、ドラッグ使用、発症年齢、思春期の子供	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>小児や早期思春期の子供において、憂鬱的徴候と早期のアルコール使用開始との関連を検討した研究は少ない。子供における憂鬱的徴候が、それに引き続くアルコール使用と関連があるか、もしそうであるならこの関連は、憂鬱やアルコールによって共有される人口学的、もしくは両親、個人の危険因子の結果に過ぎないのかどうかを同定することを研究目的とした。</p> <p>方法：</p> <p>プエルトリカンの小児および早期思春期の子供を対象にした精神病理学の経時研究である、Boricua Youth Study からの 10-13 歳の子供のサブサンプル(N=1119)をもとに解析を行った。本研究の子供は 2000 年から 2004 年の間に 3 回評価された。対面による構造化面接が両親と子供に実施された。</p> <p>結果：</p> <p>憂鬱的徴候とアルコール使用はいくつかの有意なリスクと防御的因子、例えば両親の精神病理的因子、養育、暴力に子供が曝されること、反社会的行動を共有していた。これらの因子を制御した後、憂鬱的徴候とアルコール使用との関連は減少した。しかしながら子供の憂鬱的徴候は、これに引き続くアルコール使用の開始と正の関連を示していた。中程度もしくは高程度の憂鬱的徴候を示す子供は、そうでない子供に比べ 2 倍以上、アルコール使用する傾向を示した。</p> <p>結論：</p> <p>人生初期の憂鬱的徴候がアルコール使用の早期開始を導くという今回の研究結果は、思春期前の子供において、憂鬱的傾向を同定し治療することの重要性を示唆している。本研究はまた、憂鬱的徴候とアルコール使用の関連を理解するためには、共有されるリスクと防御因子の検討が重要であることを示した。</p>	